

2022年度 読むことのすすめ「メディアとなるもの」リーディングリスト

*各項目に含まれる内容

(1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 数が大きいほど難易度が高い / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) レイ・ブラッドベリ (2014年) 『華氏451度 [新訳版]』早川書房、ISBN:9784150119553
- (2) 学問領域 : サイエンスフィクション
- (3) キーワード : SF、書物と文化
- (4) 難易度 : 1
- (5) 書物を読む上で、書物とは何かを考えることができるSF作品。書物が世界から消えたらどうなるのでしょうか。そのようなIFを刺激的に描くSF名作です。
- (6) 推薦者 : 柴田悠基 (創造工学部)

- (1) 樋口恭介 編 (2021年) 『異常論文』早川書房、ISBN:9784150315009
- (2) 学問領域 : サイエンスフィクション
- (3) キーワード : SF、書物と文化
- (4) 難易度 : 2
- (5) SF (サイエンス・フィクション) は未来や異世界にあるであろうサイエンスや社会システムなどを理論立てた世界観で物語が描かれます。本書は日本のSF作家22名によるSF世界で発表されるであろうサイエンスや社会学に関する架空論文がまとめられています。未来を考えるために未来を仮定する興味深い試みに触れてみましょう。
- (6) 推薦者 : 柴田悠基 (創造工学部)

- (1) 日本SF作家クラブ 編 (2021年) 『ポストコロナのSF』早川書房、ISBN:9784150314811
- (2) 学問領域 : サイエンスフィクション
- (3) キーワード : SF、書物と文化
- (4) 難易度 : 2
- (5) 時代が揺れ動く時、SF小説はいち早くそれを察知し未来の可能性を描きます。本書はコロナ禍の混乱の最中に執筆された短編SFのオムニバス小説です。リアルタイムで当事者になる読者にとっては、小説を読む行為以上に社会そのものを考えるきっかけとなりうる今読むべき作品です。
- (6) 推薦者 : 柴田悠基 (創造工学部)

- (1) 宮本常一 (1984) 『忘れられた日本人』岩波書店、ISBN:9784003316412
- (2) 学問領域 : 民俗学
- (3) キーワード : 辺境や周縁、生活史
- (4) 難易度 : 1
- (5) 離島研究の第一人者である宮本常一によって、辺境や周縁で生きる人びとの生活史が描かれています。本書は、離島を主な舞台として開催されている瀬戸内国際芸術祭のボランティアサポーターこえび隊のホームページで「必読本」として紹介されています。
- (6) 推薦者 : 小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 吉田隆之 (2021) 『芸術祭と地域づくり [改訂版] : “祭り”の受容から自発・協働による固有資源化へ』水曜社、ISBN:9784880655024
- (2) 学問領域：文化政策学
- (3) キーワード：地域づくり、芸術祭
- (4) 難易度：2
- (5) 芸術祭が、地域コミュニティの形成にどのように影響しているのかを分析しています。7つの芸術祭をもとにして、地域づくりのプロセス、短中期的な地域づくりにつなげられない要因、ユニークな拠点形成の事例、そして芸術祭の評価事例等について論じています。
- (6) 推薦者：小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 宮本結佳 (2018) 『アートと地域づくりの社会学：直島・大島・越後妻有にみる記憶と創造』昭和堂、ISBN:9784812217337
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：地域づくり、持続可能なアートプロジェクト
- (4) 難易度：3
- (5) 地域社会とアート側の双方から提起されたアートプロジェクトに対する疑問を整理し、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」や「瀬戸内国際芸術祭」の舞台を事例にして、持続可能なアートプロジェクトの展開可能性を示しています。
- (6) 推薦者：小坂有資 (大学教育基盤センター)

- (1) 柳宗悦 (1985年) 『手仕事の日本』岩波書店、ISBN:9784003316924
- (2) 学問領域：民俗学、哲学
- (3) キーワード：民藝品、日本文化、伝統
- (4) 難易度：1
- (5) 「民藝」の父、柳宗悦が若者のために著した日本を旅する一冊。全国各地の民芸品を訪れ、かわいらしい挿絵とともに紹介が続きます。『民藝の日本』とセットでぜひ。
- (6) 推薦者：大村隆史 (地域人材共創センター)

- (1) 志賀直邦 (2016年) 『民藝の歴史』筑摩書房、ISBN:9784480097347
- (2) 学問領域：芸術、社会学
- (3) キーワード：民藝運動、歴史
- (4) 難易度：2
- (5) 「民藝」が生まれた社会と経済に生きた人物たちはどのような関係を築いてきたのか。人物関係史的に「民藝」を読み解く一冊といえます。
- (6) 推薦者：大村隆史 (地域人材共創センター)

- (1) 軸原ヨウスケ・中村裕太 (2018年) 『アウト・オブ・民藝』誠光社、1,650円、ISBN:9784991114915
- (2) 学問領域：芸術、社会学
- (3) キーワード：民藝運動、農民芸術
- (4) 難易度：2
- (5) 「民藝的な何か」が幅広く提示されています。民藝とその周縁の芸術を理解するための一助となる一冊です。収録された人物相関図を片手に『民藝の歴史』を読むのも面白いです。
- (6) 推薦者：大村隆史 (地域人材共創センター)

2022年度「書物との出会い イ (近代ヨーロッパと現代)」リーディングリスト

*各項目に含まれる内容

(1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 数が大きいほど難易度が高い / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) ジェームズ・マクラクラン (野本陽代訳) (2007年) 『ガリレオ・ガリレイ 宗教と科学のはざままで』、大月書店、ISBN : 9784272440436
- (2) 学問領域 : 科学史
- (3) キーワード : 近代科学、実験、数学、天動説、地動説
- (4) 難易度 : 1
- (5) ガリレオが遺したノートに基づく研究の成果もふまえて、当時の時代状況との関係で彼の生涯がわかりやすく解説される。関連する学問の歴史を簡潔に概観したうえで、ガリレオの位置を理解することもできる。
- (6) 推薦者 : 北林雅洋 (教育学部)

- (1) 隠岐さや香 (2018年) 『文系と理系はなぜ分かれたのか』、星海社新書、ISBN : 9784065123843
- (2) 学問領域 : 科学史
- (3) キーワード : 学問の歴史、日本の近代化、イノベーション、ジェンダー、学際化
- (4) 難易度 : 2
- (5) 日本の多くの高校生が選択を迫られる文系と理系に着目し、その現状を歴史的に分解して解き明かしたうえで、今日のイノベーションやジェンダーの視点から検討が加えられる。学問や大学の歴史、日本の近代化の特徴が要領よく示されている。
- (6) 推薦者 : 北林雅洋 (教育学部)

- (1) 大沼正則 (1995年) 『技術と労働』、岩波書店、ISBN : 4000036629
- (2) 学問領域 : 技術史、科学史
- (3) キーワード : 自然科学、文明、産業革命、戦争、原爆
- (4) 難易度 : 3
- (5) 人類にとっての技術の意義や技術の発展がもたらす諸矛盾が、人類の起源から今日までを通して、具体的に示される。そもそも技術とは何か、技術と自然科学の関係とは、戦争との関係をどうとらえるか、これらについて考える材料・視点が提供されている。
- (6) 推薦者 : 北林雅洋 (教育学部)

- (1) 阿部 謹也 (2007年) 『自分のなかに歴史を読む』 2007刊行 ちくま文庫 ISBN : 9784480423726
- (2) その本が関連する学問領域 : 歴史学、哲学
- (3) キーワード : 生きる、学ぶ、探求する、現在
- (4) 本の難易度 : 1
- (5) この本の内容は、部分的には、著者が歴史学の授業で語っていたことである。それに気づいたのは、卒業してしばらく経って本書を読んだときである。印象に残るのは、師、上原専祿との出会いである。著者の生きる道が定まったときである。血縁を超えて生きること、その意味が深く語られていると思う。学ぶということは、自分のなかにあることを見つけてそれを世界と地続きのものとして捉えなおすことである。「わかった」などと簡単に言うことはできないと著者が言っていたことを今も覚えている。
- (6) 推薦者 : 山本陽一

- (1) 阿波根昌鴻 (1973 年)『米軍と農民——沖縄県伊江島』岩波新書 ISBN : 9784004111047
- (2) その本が関連する学問領域 : 政治学、法学
- (3) キーワード : 戦い、生命、人間の尊厳、祖先、赦し
- (4) 本の難易度 : 1
- (5) この本との出会いは、女優木内みどりさんの本を介してである。木内さんは TV では知っていたが、こんなに一途な誠実な人であるということは知らなかった。その人の書いた本に本書が紹介されていた。沖縄はアメリカと日本の政府によっていじめられていることは周知の事実。本書は、その歴史を生きた著者の言葉である。単なる知識ではなく、生きられた言葉である。分析を許さない、淡々とした語り引き込まれる。半世紀を経てますます深く心を突き刺す。
- (6) 推薦者 : 山本陽一

- (1) シオドーラ・クローバー (2003 年)『イシ 北米最後の野生インディアン』岩波現代文庫 ISBN : 9784006030858
- (2) その本が関連する学問領域 : 人類学、歴史学
- (3) キーワード : 人間の尊厳、文明、文化、言語
- (4) 本の難易度 : 1
- (5) この本との出会いは、哲学者の鶴見俊輔さんの本を通じてであるが、それがどの本であったかは思い出せない。いろんな読みどころがあると思うが、わたしには旧石器時代の最後のインディアンと、大量殺りく兵器で戦った第 1 次世界大戦との時間的交錯が印象的である。アメリカ先住民の受難は、イギリスによる入植にはじまる。その本質はすでに福沢諭吉が『文明論之概略』で喝破している。最後のひとりの運命が「近代的」といわれる社会に問いかけることは多いと思う。
- (6) 推薦者 : 山本陽一

- (1) 阿部謹也 (2007 年)『近代化と世間』、朝日新聞社、ISBN:9784022618115
- (2) 学問領域 : 歴史学、民俗学、社会学、法学
- (3) キーワード : 大学、世間、歴史
- (4) 難易度 : 1
- (5) 大学で学ぶということ自体の意味を歴史的に考え、学習を日本でおこなう意味を批判的に論じている。ゲーテは「脚の下を掘れ、そこに泉が湧く」と述べているが、まさしく本書はそのようなものである。香川大学を含む大学教育の劣化を反省したい諸氏に推薦する。
- (6) 推薦者 : 山本陽一 (法学部)

- (1) トマス・ホッブズ (永井道雄・上田邦義訳) (2009 年、原著は 1651 年)『リヴァイアサン 1』、中央公論社、ISBN: 9784121601070
- (2) 学問領域 : 哲学、政治学、法学、歴史学、倫理学
- (3) キーワード : 国家、道徳、法律
- (4) 難易度 : 3
- (5) 一般に政治学の古典といわれるが、根本的には、世界を疑い自分で考えることをデカルトやベーコンと並んで実践した本。近代化という日本人にとっては避けたい課題を原初の形態において示す。本書は、レトリックを駆使して後世の人間を近代へと誘惑する。
- (6) 推薦者 : 山本陽一 (法学部)

- (1) 長尾龍一 (1994 年) 『リヴァイアサン』 講談社、絶版、ISBN:9784061591400
- (2) 学問領域：法学、思想史、政治学、歴史学
- (3) キーワード：国家、ホッブズ、ケルゼン、シュミット
- (4) 難易度：2
- (5) 近代国家を相対化することで、わたしたちの生きる世界を相対化してみせる稀有の書。微細な行論のなかに真理の輝きがある。その意味ですきがなく、にもかかわらず、遊び心を感じさせる。およそ知をもって立たんとする人間の姿が眼前にそびえるのを見るだろう。
- (6) 山本陽一 (法学部)

- (1) 御子柴義之 (2015 年) 『自分で考える勇気 カント哲学入門』、岩波ジュニア新書、ISBN : 9784005007981
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：理性、批判、自律、啓蒙
- (4) 難易度：1
- (5) 「カントの原典にいきなり挑戦するのはちょっと…」と思っているみなさんに、まず読んでもらいたい一冊。身近な出来事とのつながりで、カント哲学のエッセンスと「自分で考えること」の大切さを教えてくれる。
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 石川文康 (1995 年) 『カント入門』、ちくま新書、ISBN : 978-4480056290
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：理性、批判、認識、道徳、美
- (4) 難易度：1
- (5) 理性自体に人間を欺く可能性がある—このショッキングな事実の発見こそがカント哲学の出発点だとして、そこから著者はカント哲学の全体像を読み解いていく。本書を読むと、哲学もまたドラマチックな展開を持っているということがよくわかる。
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) カント (中山元訳) (2012 年) 『道徳形而上学の基礎づけ』、光文社古典新訳文庫、ISBN:9784334752521
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：人間の尊厳、道徳、理性、義務、善い／悪い
- (4) 難易度：3
- (5) 多くの事例に基づいて、善い／悪いとは何か、人間が守るべき道徳の原則とは何か、といった問題について読者に考えさせる倫理学の古典。正直、寝転がって読めるような簡単な本ではないが、この文庫には非常に詳しい解説があるので、そちらを参考にしながら読み進めてほしい。現代でもたびたび引き合いに出される書物なので、大学生のうちにぜひチャレンジを！
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) マイケル・ローゼン (内尾太一ほか訳) (2021 年)『尊厳—その歴史と意味』岩波書店、ISBN : 9784004318705
- (2) 学問領域 : 哲学、法学、政治学
- (3) キーワード : 人間の尊厳、人権、カント、
- (4) 難易度 : 2
- (5) 「尊厳」はいろいろな仕方理解される語で、それが原因で論争が生じることも多い。ローゼンはこの混乱を「概念のルーツ」に戻ることによって解きほぐしていく。ルーツ探索をふまえ、具体的な事例に即した考察が展開される第二章、第三章は、「尊厳」について考えを深めるための材料の宝庫である。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (・) 辻村みよ子 (2013 年)『人権をめぐる一五講』、岩波現代全書、ISBN : 9784000291170
- (・) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、法学、社会学
- (3) キーワード : 人権、多文化主義、フェミニズム、表現の自由、平和と安全
- (4) 難易度 : 2
- (5) 「人権の保障」という考えは、現代において誰もが認めるべき前提になっているように思える。しかし本書を読み、事例に即して考えてみると、「人権の保障」が、個別の権利や利害同士が衝突する非常に難しいテーマであることが分かる。本書は具体的な事例が豊富で、自分の関心のある考察の糸口がきっと見つかるはず。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (・) 辻村みよ子 (2012 年)『代理母問題を考える』、岩波ジュニア新書、ISBN : 9784005007226
- (・) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、法学、社会学
- (3) キーワード : 人権、代理出産、生殖に関する権利 (リプロダクティブ・ライツ)、生殖ビジネス
- (4) 難易度 : 1
- (5) 憲法学、人権論の立場から「代理母出産」の問題に取り組んできた著者が、この問題の構造を分かりやすく解説。「生殖に関する権利 (リプロダクティブ・ライツ)」に関する入門書の中でもイチオシ。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 魯迅 (竹内好訳) (2016 年)『阿Q 正伝・狂人日記 他十二編 (呐喊)』岩波文庫、ISBN : 9784003202524
- (2) 学問領域 : 文学、社会学
- (3) キーワード : 魯迅、呐喊 (とっかん)、近代中国、封建社会、社会変革
- (4) 難易度 : 1
- (5) 日本でも愛読者の多い魯迅の代表的な短編小説集であり、現実描写とユーモア満載の創作手法は特徴的である。「狂人」、「阿Q」などの人物を描くことによって、近代中国社会の救いがたい病根とは何かを問いかける。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 川島真 (2010 年)『近代国家への模索 1894-1925』(シリーズ中国近現代史②) 岩波新書、ISBN : 9784004312505
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学
- (3) キーワード : 近代国家、清王朝、辛亥革命、中華民国、割拠
- (4) 難易度 : 2
- (5) 近代中国は諸列強に侵略される半植民地国家と化した。しかし「近代化」が西欧諸国からアジアに伝わってくる過程において中国の「知識人・有志」は日本と同じように「救国」について悩み、近代化への道を模索していた。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 原田敬一 (2007年) 『日清・日露戦争』(シリーズ日本近現代史③) 岩波新書、ISBN : 9784004310440
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学
- (3) キーワード : 日清・日露戦争、朝鮮、明治、日本帝国
- (4) 難易度 : 2
- (5) 近代日本は、日清・日露戦争から始まった戦争によって東アジアを植民地にし、帝国にのし上がった。両戦争は東アジアの新秩序を形成した。日中韓の歴史認識をめぐる対立の原点はそこにあったかもしれない。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 松本健一 (2008年) 『近代アジア精神史の試み』岩波書店 (岩波現代文庫 社会 158)、ISBN : 9784006031589
- (2) 学問領域 : 社会学、歴史学
- (3) キーワード : アジアの共時性、脱亜入欧、共存共栄
- (4) 難易度 : 3
- (5) 本書は近代から今日に至るアジア諸国の歩みを精神史の視点からそれぞれの特徴を明らかにした。アジアの近代形成のみならず、今日のアジアの繁栄・競争・対立を正當に評価するために欠かせない視点も提示してくれる。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 花田清輝 (2008年) 『復興期の精神』講談社、ISBN:9784062900133
- (2) 学問領域 : 文芸批評
- (3) キーワード : ルネサンス、マルクス主義、近代の超克
- (4) 難易度 : 3
- (5) 太平洋戦争下に書かれた西洋ルネサンス論。花田は、ある天文学者と殺人者を論じ、「ひとりには晴れわたつた空に、ひとりには湿気を含んだ壁に、—すなはち、かれらの前に立ちふさがり、絶えずじりじりとかれらを圧迫しつづけているものなかに、不意に二つの焦点のある、かれらの魂の形をみいだした」と述べている。日々忙しく、なんとなく生きにくい最近の世のなかであるが、我々もそろそろそんな魂をみるころがあるだろう。
- (6) 推薦者 : 渡邊史郎

- (1) カール・マルクス (森田成也訳) (2020) 『共産党宣言』光文社、ISBN : 9784334754204
- (2) 学問領域 : 社会思想
- (3) キーワード : 共産主義、プロレタリアート、ブルジョアジー
- (4) 難易度 : 3
- (5) 本書が書かれたとき日本はまだ江戸時代。共産主義というと全体主義的な官僚国家が想起されるかも知れないが、本書からはそんな印象はない。マルクスが言いたいのは、人類の歴史は、ただの争いの連続ではなく、階級闘争の歴史だということである。共産主義者とはその闘争のなかで必然的に出現する何者かであって、そう呼ばれなくても常に存在しているということになるだろう。
- (6) 推薦者 : 渡邊史郎

- (1) 太宰治 (2009 年) 『お伽草紙』新潮社、ISBN:9784101006079
- (2) 学問領域：小説
- (3) キーワード：戦争、日本古典文学、パロディ
- (4) 難易度：2
- (5) 太平洋戦争中、娘と一緒に防空壕に逃げ込みながら書かれたと言われる、日本の昔話のパロディ「お伽草子」などをおさめた本である。「浦島さん」、「カチカチ山」、「瘤取り」などには、日本社会や日本人への太宰特有の嫌みが隠微に炸裂している。それは滅びつつある日本に対する正直な批判だったのか、あるいは悪ふざけだったのだろうか。
- (6) 推薦者：渡邊史郎

- (1) チャールズ・ディケンズ (中川敏訳) (1991 年) 『クリスマス・キャロル』、集英社文庫、ISBN : 408752017X
- (2) 学問領域：文学
- (3) キーワード：19 世紀イギリス、キリスト教文化、社会問題、教育
- (4) 難易度：2
- (5) クリスマス・イヴの一晩で守銭奴の金貸しが改心するまでを描く、19 世紀イギリスを代表する文豪の作品。小説家ディケンズの魅力だけでなく、資本主義やクリスマスなど現代につながるテーマ性も十分。
- (6) 推薦者：杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 新井潤美 (2016 年) 『魅惑のヴィクトリア朝：アリスとホームズの英国文化』、NHK 出版新書、ISBN : 9784140884942
- (2) 学問領域：文学、文化研究
- (3) キーワード：19 世紀イギリス、文化研究、社会問題、歴史
- (4) 難易度：1
- (5) 「イギリス」と言われて何を思い浮かべるだろうか？現代イギリスの基礎の大半は 19 世紀に生まれたと言っても過言ではない。その文化についてシャーロック・ホームズシリーズなどの有名な文学作品を切り口に解説した一冊。
- (6) 推薦者：杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 坪内逍遙 (2010 年) 『小説神髓』、岩波文庫、ISBN : 9784003100417
- (2) 学問領域：文学、国際日本学、近代日本文化
- (3) キーワード：明治日本文学、近代ヨーロッパ受容
- (4) 難易度：3
- (5) 海外の文化を取り入れて、自国の文化を発展させる。21 世紀の現代では自明のことのように思えるかもしれないが、実は明治のころからそのような試みは行われていた。「日本独自の小説を作り上げるには何をすべきか」という大きすぎる問題を大真面目に解説した実験作。
- (6) 推薦者：杉田貴瑞 (教育学部)

2022 年度「書物との出会い □（女と男）」リーディングリスト

*各項目に含まれる内容 (1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード：その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度：0～3まで（数が大きいほど難易度が高い） / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) 長谷川真理子 (1999) 『オスの戦略メスの戦略 (NHK ライブラリー)』日本放送出版協会、絶版、ISBN: 978-4140841044
 - (2) 学問領域：進化生態学、行動生態学、進化心理学
 - (3) キーワード：進化、有性生殖と無性生殖、自然選択と性選択
 - (4) 難易度 1
 - (5) 性は繁殖のためにあると誰しも思いがちであるが、二分裂して増える細菌のように性なしで繁殖する生物がいる。そのような祖先型からどのようにして、また何のために性が生じ、雄と雌に二極化し、それが男と女になったのか、進化生物学の見地からこの本は教えてくれます。
 - (6) 推薦者：安井行雄（農学部）
-
- (1) 養老孟司・長谷川真理子 (1998) 『男の見方 女の見方 (PHP 文庫)』PHP 研究所、絶版、ISBN: 978-4569571362
 - (2) 学問領域：進化生物学、人類学、心理学
 - (3) キーワード：セックスとジェンダー、体の性と心の性
 - (4) 難易度 1
 - (5) 人間社会の中で文化的後天的に作られた性別(ジェンダー)の背後には、進化の過程で備わった生物学的な性(セックス)が隠れている。男と女の性格や物の見方の違いには生物学的な根拠があるのかもしれない。
 - (6) 推薦者：安井行雄（農学部）
-
- (1) 長谷川寿一・長谷川真理子 (2000) 『進化と人間行動』東京大学出版会、ISBN:4130120326
 - (2) 学問領域：進化生態学、霊長類学、人類学、進化心理学
 - (3) キーワード：人間性の起源、人類の進化
 - (4) 難易度 3
 - (5) 進化生物学の基礎知識から説き起こし、人間性とは何か、どのようにして動物から人間は生まれたのかを解説する「進化心理学」の代表的教科書
 - (6) 推薦者：安井行雄（農学部）

- (1) 長谷川真理子 (2009) 『動物の生存戦略 ー行動から探る生き物の不思議ー』 左右社、ISBN: 978-4903500119 /ebook
- (2) 学問領域：動物行動学、進化生態学、行動生態学
- (3) キーワード：進化、適応、自然選択、性選択
- (4) 難易度 1
- (5) 動物の行動や習性には彼らが生き残りを賭けた競争の中で進化させてきた適応戦略がみられる。進化生物学の基礎を学びさまざまな動物の生き残り戦略を楽しみながら知ることができる本。
- (6) 推薦者：安井行雄（農学部）

- (1) 山田昌弘 (2019) 『結婚不要社会』 朝日新聞出版、ISBN: 402295020X
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：近代家族、結婚
- (4) 難易度 1
- (5) 1996年に『結婚の社会学』を著した山田昌弘が、その後の20年超の変化をまとめたのが本著である。「結婚不可欠社会」としてはじまった近代社会が、現在の「結婚困難社会」へ移行し、将来的には「結婚不要社会」を迎えると予想する。「結婚」について考えたい人には必読の一冊である。
- (6) 推薦者：西本佳代（大学教育基盤センター）

- (1) 赤川学 (2017) 『これが答えだ！少子化問題』 筑摩書房、ISBN: 9784480069368
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：少子化対策、希望出生率
- (4) 難易度 2
- (5) 巨額の税金が少子化対策のために使われているが、改善のきざしはほとんど表れていない。なぜ効果が表れず、少子化が進むのか。少子化問題の最終回答を試みるのが本著である。同じく赤川学著の『少子化問題の社会学』（2018年、弘文堂）、『子どもが減って何が悪いか！』（筑摩書房、2004年）をあわせて読んで理解を深めてほしい。
- (6) 推薦者：西本佳代（大学教育基盤センター）

- (1) 山田昌弘 (1996) 『結婚の社会学 未婚化・晩婚化はつづくのか』丸善ライブラリー、ISBN : 9784621052068 /ebook
- (2) 学問領域 : 社会学
- (3) キーワード : 近代家族、結婚
- (4) 難易度 1
- (5) 結婚に対する願望が強くみられる一方で、なぜ、結婚年齢が上昇し、独身者が増え続けているのか？このパラドクスを社会的に解き明かそうとするのが本著である。結婚とは、男性には「イベント」、女性には「生まれ変わり」等、1996年の著書でありながら、現在にも適用できる枠組みは多い。ぜひ、『結婚不要社会』とあわせて読んで、現在との相違を検討してほしい。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 山本順一編 (2013) 『新しい時代の図書館情報学』有斐閣、ISBN : 978464122083 /ebook
- (2) 学問領域 : 図書館情報学
- (3) キーワード : 図書館
- (4) 難易度 2
- (5) 図書館の意義と役割、制度等を分かりやすくまとめた入門的テキストである。電子書籍化に代表される高度情報社会において、図書館に何ができるのだろうか。本著を読んで、普段自分が使っている図書館について考察してほしい。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 本田由紀 (2021) 『「日本」ってどんな国？ - 国際比較データで社会が見えてくる』ちくまプリマー新書、ISBN : 9784480684127
- (2) 学問領域 : (教育) 社会学
- (3) キーワード : 現代社会、統計、ジェンダー
- (4) 難易度 1
- (5) 国際比較データを用いて、教育、経済、政治などの多様な側面から日本の現状を捉えた1冊。本書を読んで、自分の“あたりまえ”を問い直してほしい。
- (6) 推薦者 : 黒澤あずさ (ダイバーシティ推進室)

- (1) 大沢真理 (2020) 『企業中心社会を超えて—現代日本を<ジェンダー>で読む』岩波現代文庫、ISBN: 9784006004224
- (2) 学問領域： 社会政策論、ジェンダー論
- (3) キーワード：ジェンダー、社会保障、労働、現代社会
- (4) 難易度 3
- (5) 1993年に刊行された本の文庫化であるが、本書が指摘する日本社会の“家族だのみ・大企業本位・男性本位”という特徴は、いまだ続いている。コロナ禍で明らかになってきたさまざまな問題と関連づけて読んでほしい。
- (6) 推薦者：黒澤あずさ (ダイバーシティ推進室)

- (1) 田中ひかる (2019) 『生理用品の社会史』角川ソフィア文庫、ISBN : 9784044004736
- (2) 学問領域： (歴史) 社会学、ジェンダー論
- (3) キーワード：ジェンダー、月経観、女性史、広告
- (4) 難易度 2
- (5) 古代から現代までの日本の生理用品の歴史についてまとめた1冊。巻末の生理用品メーカー「アンネ社」の広告資料は必見。生理用品へのアクセスがしにくい“#生理の貧困”のムーブメントを考える上でも、参考になる。
- (6) 推薦者：黒澤あずさ (ダイバーシティ推進室)

- (1) 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 (2019) 『女性学・男性学 —ジェンダー論入門—』(第3版) 有斐閣アルマ、ISBN : 9784641221222 /ebook
- (2) 学問領域： 社会学、ジェンダー論
- (3) キーワード：ジェンダー、フェミニズム、男女共同参画社会
- (4) 難易度 2
- (5) 版を重ねているジェンダー論入門書の一つ。家族、労働などさまざまな切り口から、ジェンダーについて自分事として考えられるきっかけとなるストーリー・マンガが掲載されている。コラムで取り扱っているトピックスにも注目してほしい。
- (6) 推薦者：黒澤あずさ (ダイバーシティ推進室)

(1) エンマ・ユング (著) 笠原嘉・吉本千鶴子 (訳) (2013) 『内なる異性—アニムスとアニマ』
バンダリー叢書、ISBN : 9784875252931

(2) 学問領域 : 心理学

(3) キーワード : 男性性、女性性、古典

(4) 難易度 3

(5) 女性の中には内なる男性性「アニムス」が、男性の中には内なる女性性「アニマ」が存在するという説を耳にしたことはあるだろうか。ユング心理学における「元型論」を通し、内なる異性を統合することにより成される自己実現の在り方について述べられた書である。

(6) 推薦者 : 大塚美菜子 (保健管理センター)

(1) 濱田智崇・[男] 悩みのホットライン編 (2018) 『男性は何をどう悩むのか—男性専用相談窓口から見る心理と支援』、ミネルヴァ書房、ISBN : 978-4623082438

(2) 学問領域 : 心理学

(3) キーワード : 男性問題、男性相談

(4) 難易度 2

(5) 男性ならではの問題を、「相談」という切り口から示したのが本書である。相談担当者向けの専門書でもあり、社会問題だけでなく各事例に対する支援の実際についても書かれているのが特徴である。

(6) 推薦者 : 大塚美菜子 (保健管理センター)

(1) 河合隼雄 (2008) 『とりかえばや、男と女』新潮社、ISBN:4106036169

(2) 学問領域 : 心理学

(3) キーワード : ジェンダー、深層心理

(4) 難易度 2

(5) 『とりかえばや物語』は、平安時代に描かれた男女逆転の物語である。「男らしさ」とは？「女らしさ」とは？物語からみえてくる、ジェンダーと性愛の深層を心理学の立場から読み解いていく。

(6) 推薦者 : 大塚美菜子 (保健管理センター)

- (1) 柏木恵子 (2003)『家族心理学 ―社会変動・発達・ジェンダーの視点―』東京大学出版会、ISBN：9784130120401 /ebook
- (2) 学問領域：心理学
- (3) キーワード：家族、親子、ジェンダー
- (4) 難易度 1
- (5) 時代と共に変化する「家族」を取り巻く諸問題について、文化心理学、ジェンダー論、進化心理学等の多角的な観点から論じている。家庭内での男女の役割、親子の役割についての自身の価値観と併せて捉えなおすきっかけとなる一冊だろう。
- (6) 推薦者：大塚美菜子（保健管理センター）

- (1) フロイト（著）懸田克躬・高橋義孝他（翻訳）(1971)『性欲論：症例研究（フロイト著作集5）』人文書院、ISBN：9784875252931 /ebook
- (2) 学問領域：心理学
- (3) キーワード：性欲論、リビドー的類型、性差
- (4) 難易度 3
- (5) 精神分析学の創始者であるフロイトの著作。性理論について解剖学的な性差がその人格特性に与える影響について述べられた心理学における古典のひとつである。古典ゆえにやや難解かつ近代の価値観と異なる点も多いが、そのちがいも含めた考察を試みて頂きたい一冊である。
- (6) 推薦者：大塚美菜子（保健管理センター）

- (1) 高橋秀樹 (2004)『中世の家と性（日本史リブレット）』山川出版社、ISBN：978-4634542006
- (2) 学問領域：歴史学（日本史）
- (3) キーワード：家族史、生活史、性差
- (4) 難易度 1
- (5) 日本中世の家族史・生活史について、女性史・男性史、あるいは性差の視点から、これまでに明らかになっている基本的な情報や歴史認識についてわかりやすく論じている。基本的な知識を身につけるのに適当な良書である。
- (6) 推薦者：守田逸人（教育学部）

- (1) 清水克行 (2015) 『耳鼻削ぎの日本史』 洋泉社、ISBN : 978-4-8003-0670-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 身体刑、習俗、性差、人間観
- (4) 難易度 3
- (5) 前近代の日本列島で行われていた耳鼻削ぎの身体刑は、鎌倉時代の地頭の非法行為として高校の日本史教科書にも登場するなど、よく知られているところである。しかし、耳鼻削ぎの習俗は、おもに女性に対して行われた身体刑であることはあまり知られていない。本書は、その習俗が存在した歴史的意味を理解し、いまでも現実に世界で行われているこうした習俗について、考えるきっかけになるであろう。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 池上俊一 (2001) 『身体の中世』 筑摩書房、ISBN : 4-480-08666-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (西洋史)
- (3) キーワード : 身体、表象、感性、人間観
- (4) 難易度 3
- (5) 西洋中世社会における人間や人間の身体、あるいは目や耳など人間を構成する様々な部位等に対する認識のあり方、または人間の表情やしぐさのあり方について広く考察したものである。本書は「男と女」の論点にとどまらず広い視野で論が展開しているが、講義内容をふまえて「男と女」の視点から読み解くことで、様々な角度から「男と女」がどう認識されてきたか、理解を深めることができる。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 網野善彦 (2005) 『中世の非人と遊女』 講談社学術文庫、ISBN : 978-4-06-159694-8
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 心性、女性、差別、人間観、社会観
- (4) 難易度 3
- (5) 日本の歴史学が農業、とくに水田を軸とした社会の分析に力点を注いできたことに対し批判的な立場をとりつつ、職人などの非農業民や女性のあり方を考察してその歴史的立場について論じている。とくに、日本列島における「差別」意識の歴史的あり方やその変化のあり方について踏み込んだ検討をしておき、そうした問題について理解を深めるきっかけになるだろう。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)

- (1) 渡辺京二 (2005) 『逝きし世の面影』 平凡社、ISBN : 9784582765526 /ebook
- (2) 学問領域 : 歴史学 (日本史)
- (3) キーワード : 異文化理解 ジャポニズム オリエンタリズム 多様性
- (4) 難易度 2
- (5) 本書は、19 世紀後半に日本列島を訪れた諸外国人がふれた当時の日本列島の景観、風習、文化についての記録と、それらに対する当時の諸外国人の目線からの評価、感想を集大成したものである。多くの外国人が、はじめて日本文化に接したときの衝撃がはっきりと描かれている。性差に対する考え方にも注目したい。
- (6) 推薦者 : 守田逸人 (教育学部)